

栃木県宇都宮市・芳賀町

子どもから高齢者まで誰もが移動しやすく暮らし続けられる「ネットワーク型コンパクトシティ」を実現するため、地域拠点、産業拠点、観光拠点等を繋ぐ基幹公共交通として、令和5年8月よりライトラインの運行を開始し、利便性の高い公共交通ネットワークを実現。



1. 多様な主体の参画

- ライトラインの導入に向けて、沿線住民や企業などの意見交換会、市内全39地区の連合自治会への説明、市民フォーラムやオープンハウスなど、**1,000回以上の説明会**を実施し、住民理解を促進。
- 車両のデザインや愛称を市民アンケートで選定するとともに、全19停留場の地域性を創出するため、**住民とともに壁面個性化のデザインワークショップ**を実施し、ライトラインが将来にわたって地域に愛されるようマイルール意識を醸成。

2. 創意工夫

- 交通系ICカードによる全屏からの乗降可能な**信用乗車（セルフ乗車）方式**を採用し、**定時性・速達性を確保**。
- 「Suica」と一体化した**宇都宮市独自の交通系ICカード「totra」を発行**し、バスやライトラインなどの乗継割引サービスや上限運賃制度、高齢者（満70歳以上）に対するポイント付与、小中高生への「totra」の無料配布など、**公共交通の利用促進策**を展開。
- 地域由来の再生可能エネルギー100%で走行する「ゼロカーボントransポート」を実現するとともに、民間による電気バスの導入促進を図り、公共交通ネットワークの脱炭素化を推進。



3. 自立性・継続性

- 利用者ニーズや利用動向を踏まえ、ダイヤ改正を3回実施。朝ピーク時の快速運行を開始し利便性を向上させるなどにより、**利用者数は需要予測の約1.2倍**（平日：約18,000人～20,000人、休日：約10,000人）で推移し、宇都宮ライトレール㈱は、**開業初年度より決算黒字化を達成**。
- 沿線において民間投資が活発化し、**人口や外出率が増加**するなど、まちづくり面での効果も発現。
- ライトラインの整備に併せ、バス、タクシー、地域内交通、デマンド交通、自動車等と連携するトランジットセンターを整備。また、バス路線の再編・増便（平日148本、休日18本）を図るなど、**利便性の高い公共交通ネットワークを構築**。



停留場の壁面個性化のデザインワークショップ



ライトライン沿線の人口増加

栃木県宇都宮市・芳賀町

利便性の高い公共交通ネットワークの実現

◎ライトラインを整備したことにより、一部の既存バス路線を再編し、郊外部などに振り分け、バスネットワークを充実

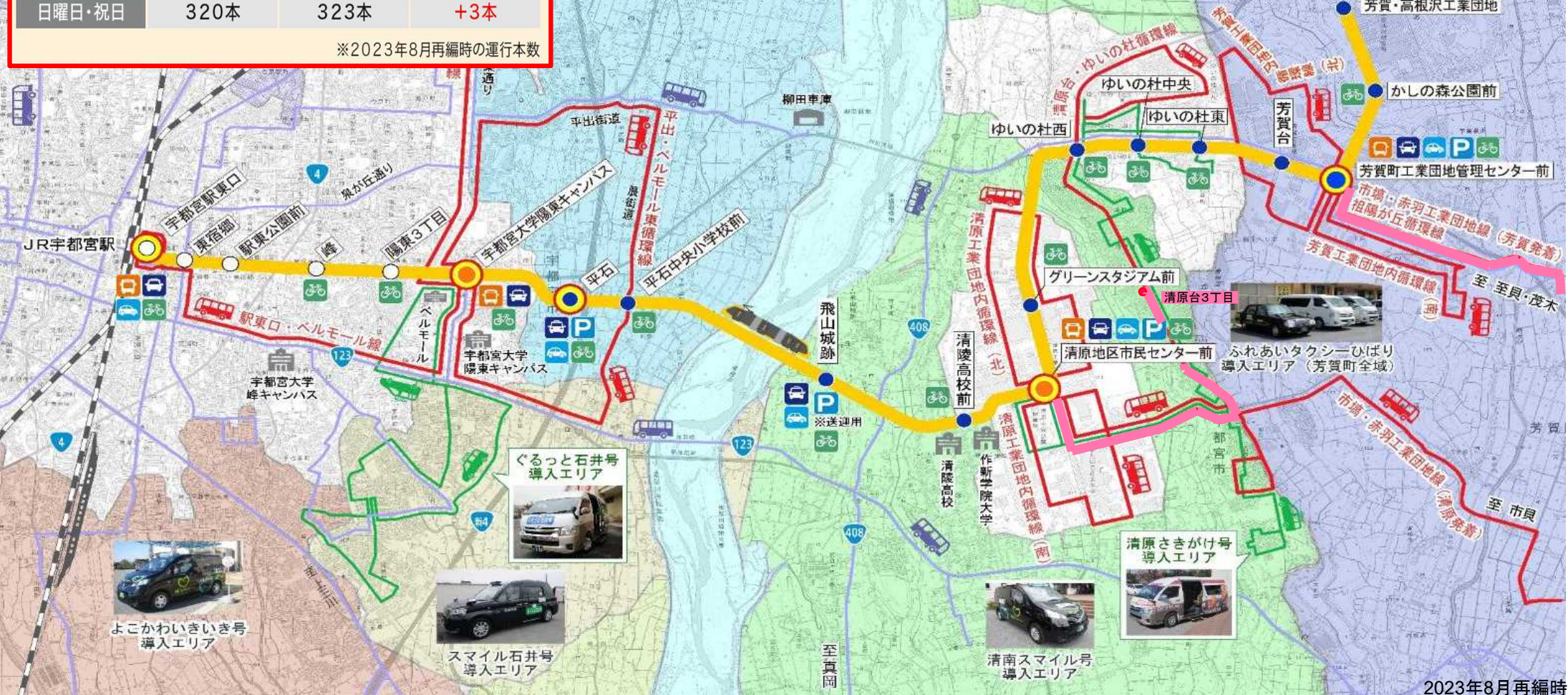
●再編後のバスの運行本数(JR宇都宮駅東側)

	再編前	再編後	再編後
平日	506本	654本	+148本
土曜日	399本	414本	+15本
日曜日・祝日	320本	323本	+3本

※2023年8月再編時の運行本数

◎バス再編前後比較(郊外部からJR宇都宮駅までの所要時間と運賃)
定時性・速達性の向上と運賃の負担軽減により利用者サービスが向上

停留場名	再編前 (バスのみ)	再編後 (バス+ライトライン)
芳賀町役場 (紫ルート)	74分 (930円)	59分 (740円) ※15分短縮 ※190円減
清原台3丁目	53分 (630円)	43分 (420円) ※10分短縮 ※210円減



2023年8月再編時